

図画工作科 授業改善推進プラン

1 昨年度の授業改善推進プランの検証

- (1) 成果
- 新しい用具でも反復練習をすることで、目的に応じて用具を活用しながら、工夫して表すことができた。
- 自分の目標のために、見たり感じたりしたことを活かしながら、楽しんで作品作りに取り組むことができた。
- (2) 課題
- 絵の具などの混色や重色のつくり方について、授業の中で継続的に取り上げる必要がある。
- 表現の幅を広げるために、目的に合わせて、今までに習得した技法を活用できるようにする。

2 観点ごとの実態

	1年	2年	3年	4年	5年	6年
知識・技能	・入学前までの経験に差があり、はさみの使い方などに差が出ている。しかし、自分の感覚や行為を通して、色や形などに着目しながら表現することができる児童が多い。	・絵の具の使い方が身につけていない児童が多い。しかし材料などを様々な視点でとらえて、創造的に作ったり表したりすることが得意な児童が多い。	・金づちなどの工具は初めて扱う児童が多い。また、手先の器用さに差があったり、絵の具の使い方が身につけていなかったりする児童がいる。	・のこぎりや彫刻刀などは初めて使う児童がほとんどである。表したいことに合わせた材料を選んで、工夫して表現することができる児童が多いが、材料に合った用具を自分で選んで使うことが苦手な児童もいる。	・細かい作業が得意な児童も多いが、材料や用具をうまく活用できない児童や表し方を工夫できない児童も多い。	・表したいものに合わせて、これまで扱ってきた用具や材料を生かしながら、工夫して作品を作ることができる児童が多い。
思考・判断・表現	・自分の発想で思いのままに取り組んでいる児童が多い。	・自由に発想することのできる児童が多い。しかし、どのように表現したらよいか考えることのできない児童も多い。	・発想したものに合う材料や表現方法を自分なりに考えている。また友達の作品の良さを見つけ、表し方を広げている。	・材料や仕組みなどから、表したいことを思いついて活動できている児童が多い。また、友達の作品の良さを感じ取り、自分の作品に取り入れようとしていることも多い。	・感じたことや材料を基に、自分なりに表したいことや、形や色などを思いついて活動している児童もいるが、表したいものが思いつかない児童も多い。	・表したいものを明確にもてない児童が一定数いる。友達の作品を鑑賞する活動では、見方や感じ方を深めることができている児童が多い。
主体的に学習に取り組む態度	・作りだす喜びを味わい、楽しく学習活動を行っている。また色や形に着目して、友達の作品を楽しく見ている。	・表現したり、友達の作品を鑑賞したりする活動に、楽しんで取り組む児童が多い。	・進んで表現したり、作りだす喜びを味わったりしている。また友達の作品を鑑賞し、良いところを積極的に見つけようとしている。	・作りだす喜びを味わいながら、活動に積極的に取り組む児童が多いが、粘り強く活動に取り組むことが難しい児童もいる。	・粘り強く取り組む児童と、集中力が続かず意欲的に取り組めない児童の個人差が大きい。	・意欲的に活動に取り組む児童が多いが、集中力が続かず粘り強く取り組めない児童がいる。

3 課題と授業の改善策

		1 年	2 年	3 年	4 年	5 年	6 年
課 題	知識・ 技能	・はさみやクレヨンを使うのが苦手な児童がいること。	・絵の具の扱いに慣れていない児童がいること。	・細かい作業が苦手な児童がいること。 ・絵の具の扱いに不安を感じている児童がいること。	・表したいものに合った材料や用具を選ぶことが、苦手な児童がいること。	・材料や用具をうまく活用できない児童や、表し方を工夫できない児童がいること。	・使用頻度が少ない用具は、扱い方を再度確認しないと扱うのが難しいと感じる児童がいること。
	思考・ 判断・ 表現	・何を描いたら良いか思いつかない児童がいること。	・何を作ったらよいか考えることができない児童がいること。	・作りたい物を細部まで考えるのが苦手な児童がいること。	・想像するのが苦手で、見本や友達の作品の真似をしてしまう児童がいること。	・造形的なよさや美しさ、表したいことや表し方について考えることができない児童がいること。	・創造的に発想や構想をしたり、親しみのある作品などから自分の見方や考え方を深めたりすることができない児童がいること。
	主体的に 学習に取 組む態度	・学習の準備に時間がかかり、制作に取り掛かるまでに時間がかかる児童がいること。	・鑑賞の活動をする際に、色や形に着目して見ることができない児童がいること。	・細部までこだわって作れない児童がいること。	・粘り強く活動に取り組めず、作品を作り込むことができない児童がいること。	・集中力が続かなかったり、細部までこだわって作れなかつたりする児童がいること。	・苦手意識があり、意欲的に活動に取り組めない児童がいること。
授 業 の 改 善 策	知識・ 技能	・用具の使い方をはじめに確認し、使うたびに正しく使えているか振り返り、用具の定着を図る。	・絵の具を扱う題材を設定し、使い方を振り返り、正しく扱えるようにする。	・細かい作業を取り入れた題材を取り入れて、作業に慣れるようにする。 ・絵の具を扱う題材を設定し、使い方を振り返り、安心して正しく扱えるようにする。	・いままでに使用したことのある材料の特徴をその都度復習して、自分が表したいものに合った材料を選べるようにする。	・表したいものに合わせて、材料や用具を選べるように、それぞれの特性を復習したり、使い方を直接見せたりする。	・題材毎に使う道具の確認をして、安心して道具を使えるようにする。
	思考・ 判断・ 表現	・身近なことや、想像しやすいテーマを設定し、本や資料などをいつでも見られるようにして、考えを広げられるようにする。	・自分の好きなものや、作れそうなものを考える時間を多めに設定し、想像や発想がしやすいようにする。	・作りたいものが決まったら、どのような表現や工夫をするのかまで細かく声掛けをして、様々な方法を提案して、いろいろな選択肢から選べるようにする。	・例や見本、資料などを用意し、友達の真似ではなく、自分で考えた作品ができるようにする。	・自分がよいと思うものや美しいと思うもの、表したいと思うものを考える時間を多めに設定し、想像や発想がしやすいようにする。	・自分がよいと思うものや美しいと思うもの、表したいと思うものを考える時間を多めに設定し、想像や発想がしやすいようにする。
	主体的に 学習に取 組む態度	・指示を簡潔に出し、一度に行うことを少なく絞って、準備や片づけなどを短く行えるようにする。	・鑑賞の活動をする時間では、どこに着目して見れば良いかあらかじめ伝えたり、鑑賞中に声掛けをしたりして、その題材に合わせた見方ができるよう意識付けをする。	・工夫点を相談しながら見付けて、本人が納得のいくように、作品の目標を決める。	・その都度よくできているところを見付けて声掛けしたり、作品の目標を一緒に考えたりして、意欲付けを行う。	・工夫点を相談しながら見付けて、本人が納得のいくように、作品の目標を決める。	・考えたことやデザインしたものの良いところを見付けて、声をかけるなどして意欲付けを行う。